

令和6年度 小平市立 学園東小学校 学校評価報告書

学校教育目標 やさしく 元気な がんばる子									
目指す学校像(ビジョン)									
【目指す学校像】 笑顔と夢があふれ コミュニティで育む 学園東 ～人にやさしく 自分につよく 元気にがんばる こどもの育成～ 【目指す児童・生徒像】 ○やさしい子(思いやりのあるやさしい子) ○元気な子(心も体も元気な子) ○がんばる子(目標をもってがんばる子) 【目指す教員像】 社会人・教育公務員としての自覚ある態度をとる。こどものよいところを認め、可能性を引き出していく。保護者と連携し地域とのつながりを大切にする。									
前年度までの学校経営上の成果と課題									
・新たな地域人材を発掘し、コミュニティ・スクールとして地域の教育力の活用をさらに進め、どの学年も地域とかかわる学習を充実させる。 ・校内研究の場を通してICTの活用が少しずつ広がってきた。基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分なこどもが見られる。個別指導や支援、ICTの活用方法を工夫し、学力分布の底上げを図る。									
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策	
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標			
学力向上	東京ベーシックドリルを活用し、朝の時間等で取り組ませる。学年必達目標「学園東小これだけは」を実施する。授業改善推進プランを活用し、各学年の実態に応じた授業改善を実施する。学習補助員を配置する。	4.0	3.1	・朝学習の時間、専科が補助として入るのが良かった。児童も、診断テストや復習プリントに取り組むことで、自分の苦手な領域を把握することができている。その一方で、前年度の学習内容がまだ充分に定着していない児童がいるので、児童同士の教え合いを充実させ、1年生の学習補助員にも朝学習の補助に入るなどの手立てを検討する。	3.6	3.5	・自分のペースに合った学習方法で「できた!」「楽しい!」「もっとやりたい!」等、こどもたちの意欲が増して学力向上につながるとい。繰り返し学習することで苦手なところも見えてくると思う。	・朝学習の教え合いについては、ニコ学朝会を実施して、方法や注意点等を伝えた。高学年を中心に少しずつ広がっているので、今後も指導を続けていく。授業改善推進プランについては、学期末に各担任で振り返りを行った。新年度も児童の実態に合わせてプランを見直す必要がある。	
	低50冊(5冊)中40冊(3冊)高30冊(1冊)を目標に幅広く読書に取り組ませる。学校の推薦本も選本するよう読書カードを工夫する。全学年で図書を用いた調べ学習を行う。	3.4	3.8	・学校司書との連携により、図書館の本の貸し出しがスムーズに行えた。児童もインターネットに頼りすぎず、積極的に図書室を活用して調べ物をしている。高学年になるほど、図書の時間が取りづらくなっているので、テスト後の20分を図書室での読書の時間に充てるとし、おすすめ本コーナーの本も積極的に紹介していく。	3.4	3.2	・読み聞かせ、ブックトークなどこどもたちに興味をもってもらう活動はこれからも続けてほしい。読書が苦手な児童にも、興味をもってもらえるような工夫も必要。テレビアニメから児童書や小説になっている本を活用するのもいいと思う。	・朝読書用に選書したものや、新着図書を各学年ごとにブックラックに用意し、教室の前に設置することができた。夏休みには「おうち読書」として親子で読書に取り組ませた。学期に1回ずつ保護者や語り部の方に読み聞かせを実施してもらった。次年度は担任や専科の先生をシャッフルして読み聞かせを行う。	
	主体的で対話的で深い学びを実現するための校内研究(令和6年度は算数)を行い、授業改善に取り組む。校内研究で検討した手立てや成果のあった取り組みを日常の学習で実践する。	3.2	3.8	・昨年度の校内研での成果もあり、教員としての意識は高まってきている。6月に来ていただいた講師の先生に教わったことも意識的に授業に取り入れるようにしている。ただ、まだ研究授業が始まっていないこともあり、分科会や全体の場での検討や、手立ての共有はできていないので、2学期以降に充実させていく。	3.4	3.8	・自分の考えをもつためには、仲間の意見を聞くこと、互いに思いを伝え合うことが重要で、これから生きていく上で重要な力だと思う。	・講師による講話で、教師の立ち位置や机間指導といった授業のスキルも勉強になった。授業では意識的にペアやグループで交流する機会が増え、児童も慣れてきた。今後は相槌や聞き方について意識させ、一方通行ではなく対話という形にもっていくきたい。導入や、話し合う必然性のある授業の展開については今後も研究をしていく必要がある。	
	体育朝会での計画的な取組や休み時間の外遊びの奨励、体育の授業改善を行う。保健(体育科)や家庭科の学習や食育、保健指導を通して健康やかに成長しようという意識を育む。	3.7	3.8	・ランチ通信を通して、季節に応じた食材や料理への興味関心を引き出せている。体育朝会では多くの児童が積極的に取り組んでおり、体を動かすことを楽しんでいる。夏季は近年大変気温が高くなることもあり、屋外での遊びや体育的な活動がしづらい。体育館に冷房設備が入ったので、今後は体育館を活用して体を動かす活動を企画していく。	3.5	3.7	・児童の体力低下が問題になっている。体育朝会ではいろいろな種目をローテーションすることで飽きずに楽しみながら体を動かせてよい。	・ランチ通信は給食時間中に放送委員会が内容を読み上げて紹介することで、食材や料理に興味をもつことにつながっている。 ・夏には冷房設備のある体育館でドッジボールをやったり、冬は屋外でドローケイやフーフープなどをやったりと、体育委員会で体を動かすことを奨励する活動をした。次年度も継続して取り組んでいきたい。	
健全育成	挨拶について生活指導目標や「学園東これだけは」に沿って計画的に指導する。敬称「～さん」をつけて呼び合うことを習慣化できるよう指導する。	3.6	3.2	・挨拶に関しては、取り組めている児童も多数いる。しかし、一人一人の児童が相手への敬意をもってすすんで挨拶ができるよう、引き続き丁寧に指導していく。言葉遣いに関しても場や相手に応じて使い分けができるように指導していく。	3.6	3.1	・丁寧な言葉遣いの習慣化が大切だ。 ・代表委員による挨拶運動は続けてほしい。大人から挨拶するように心がけているが、児童の方から挨拶してくれることもあり、うれしい。	・朝や帰りの挨拶は、成果目標の数値よりもできている実感がある。なにげない廊下での挨拶の時や一対一の挨拶となると、6年生が上手にできているが、学年が下がるにつれて難しい傾向があった。また、言葉遣いについては、改善の必要があり、生活指導朝会でも伝えた。3学期の生活指導朝会でも取り上げて繰り返し伝えていく。	
	たてわり班活動による異年齢集団の交流をすすめる。縦割りロング集会や全校遠足を実施し、相互に関わる機会を通して、相手の立場や気持ちを考えるように指導する。学級活動で話し合う力をつける。	3.6	3.5	・6年生のリーダーを中心にロング集会を行い、その様子を公開し、取組のよさを保護者・地域の方知ってもらえた。今年度から5年から6年生のサポートをするよう指導することで、目的意識をもって育み、活躍の場ができた。	3.7	3.6	・全校遠足などでたてわりでの活動ができるようになり、とても貴重な体験だと思う。特に立場の違う人の気持ちを思いやれることが大切。 ・些細なことも発信してくると聞き、非常に良いと思った。「すぐに対応、行動」をモットーにしていることもよい。	・全校遠足では、6年生がリーダーシップを発揮することができた。次年度は、春に行う予定である。春の全校遠足に向けて、6年生が意識を高めていく。たてわり班で名前を呼び合えるよう工夫していく。たてわり班のペアにこだわらず仲良くしていけるよう関わる機会をつくっていく必要がある。	
	未然防止(生活指導朝会や学級指導)、早期発見(年に3回ふれあいアンケートを実施)、早期対応(子ども支援委員会の充実)の取組を組織的に取り組む。保護者や関係機関等との連携を深める。	3.8	3.7	・早期発見や早期対応に関しては、月別の生活目標の振り返りやふれあいアンケートなども含めた手立てから発見し対応することができた。組織的な取組の充実をするため、生活夕会での発信を奨励していく。	3.9	3.6	・ふれあいアンケートや日々の児童の様子から問題の未然防止、早期対応してくだり安心。地域としても高くアンテナを張って心配なことがあったらすぐに情報共有したい。	・ふれあい月間では、多くの児童からの発信を受けて、早期対応をすることができた。また、担任や学年の教員だけで解決が難しいような事案については、スクールカウンセラーを活用し、手立てを打つことができていた。さらに経過観察の事案についても、軽視することなく、組織で共有し、対応を考えて取り組んでいく。	
	農園での体験活動やボランティア活動、地域合同の避難訓練等、各学年で地域と連携した教育活動を実施し、体験活動を充実させる。	3.8	3.8	・昨年度より学年事務の引継ぎが円滑に行われ、地域と連携した活動は引き続き実施されている。今後も学校経営協議会委員との連絡の場を通して、各学年の学習で地域人材を活用できる取り組みを検討していく。	3.9	3.9	・地域との連携は非常に大切。こどもたちを地域全体で守ることにつながる。何かの活動とは思いますが、具体的に提供する場が限られる。それでも地域として何かを提案できれば考える。 ・不登校の児童への対策として居場所が複数あるということは大切だと思う。	・全校では、防災の日の活動や読み聞かせを行った。また、低学年では、学童農園の活動、中学年ではお仕事体験や福祉体験、高学年では調理実習や裁縫の学習、租税教室、茶道教室等を行うことができた。今年度の充実した活動を次年度にも継続できるように引継ぎを行う。今後もさらに地域人材を活用した活動を検討していく。	
学校の基盤づくり	毎月及び臨時の子ども支援委員会で支援が必要な児童について支援策の検討や確認をし、生活指導夕会等で情報共有をする。	3.4	3.3	・課題のある児童について相談する場が十分でないという意見もあった。特別支援教育コーディネーターや生活指導主任を中心に、聞き取りをする場面を増やし、子ども支援委員会や生活夕会などの発信へつなげていく。	3.8	3.5	・こども支援委員会の開催で、支援策や情報共有してくださり、学校全体で取組んでくださり、ありがとうございます。	・子ども支援委員会のみならず、生活夕会での各事案の共有はかなり定着をみている。事案の内容だけでなく、対応方法などの詳しい共有が図れ、学校全体での対応につながっている。子ども支援委員会については、多忙もあり、特別支援教育コーディネーターや生活指導主任による聞き取りが十分でなかったなので、改善していく。	
業務改善	電子化等で会議の時間短縮や事務の効率化を行う。教職員各自が週に一度の定時退勤日を設定し、退勤が遅くならないよう目標をもつ。	2.9	2.8	・SSSとの事務作業分担や書庫データの活用等により、退勤時刻は早まってきている。今後も作業負担軽減のため、常習的に行っている取り組みや打ち合わせ、事務作業等の精査や効率化を行っていく。	3.0	2.5	・職員が健康でいることで、こどもたちのために、という力が発揮されると思う。 ・教職員が定時退勤日を設定している旨、保護者にも知らせてほしいと思う。理解する保護者もたくさんいる。	・負担軽減策として、学習補助員による学習活動の支援や非常勤講師による授業の実施、副校長補佐やSSSによる事務作業補助、ICTによる業務の効率化等、様々な取り組みを行った。しかし、成果指標の値は低い。今後も業務の効率化や校務の精選などを実施し、引き続き校務改善を行う必要がある。	